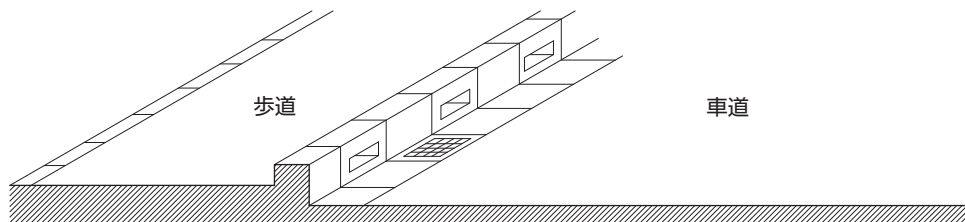


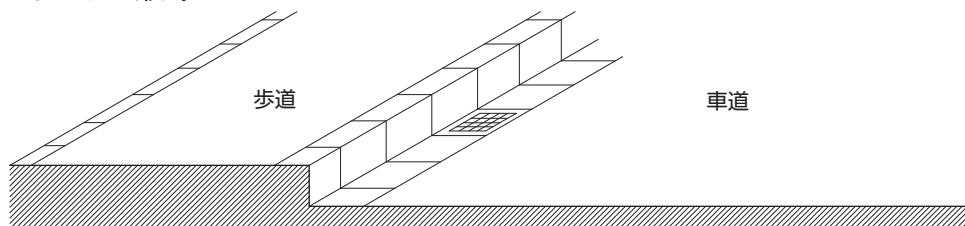
《 参 考 図 》

【図1.1】 歩車道を分離する方法

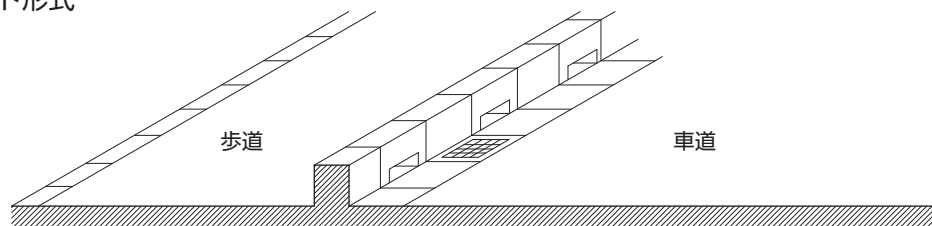
■セミフラット形式



■マウントアップ形式

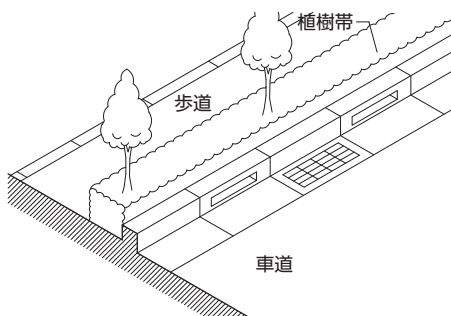


■フラット形式

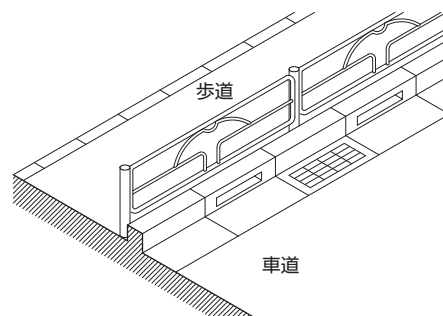


【図1.2】 歩車道を分離するもの

■縁石+植樹帯(セミフラット)

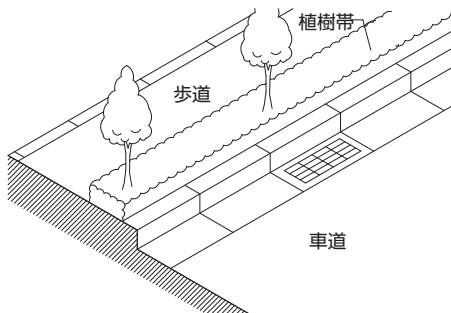


■縁石+防護柵(セミフラット)

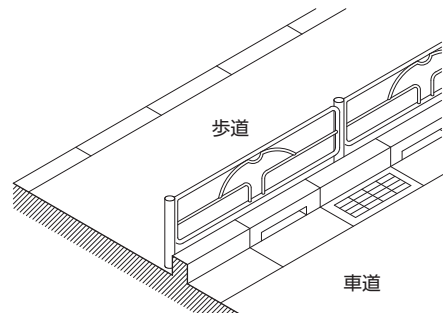


縁石が突出るため、柵等の設置が望ましい

■縁石+植樹帯(マウントアップ)



■縁石+防護柵(フラット)

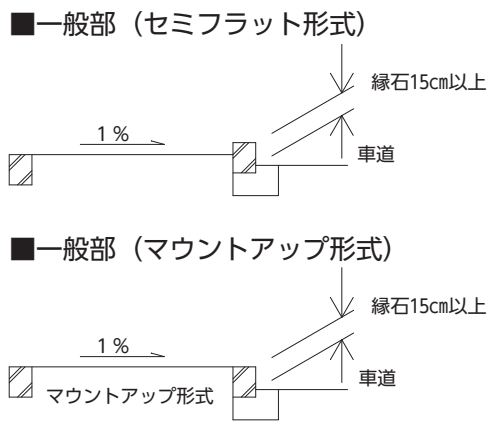


縁石が突出るため、柵等の設置が望ましい

《 参 考 図 》

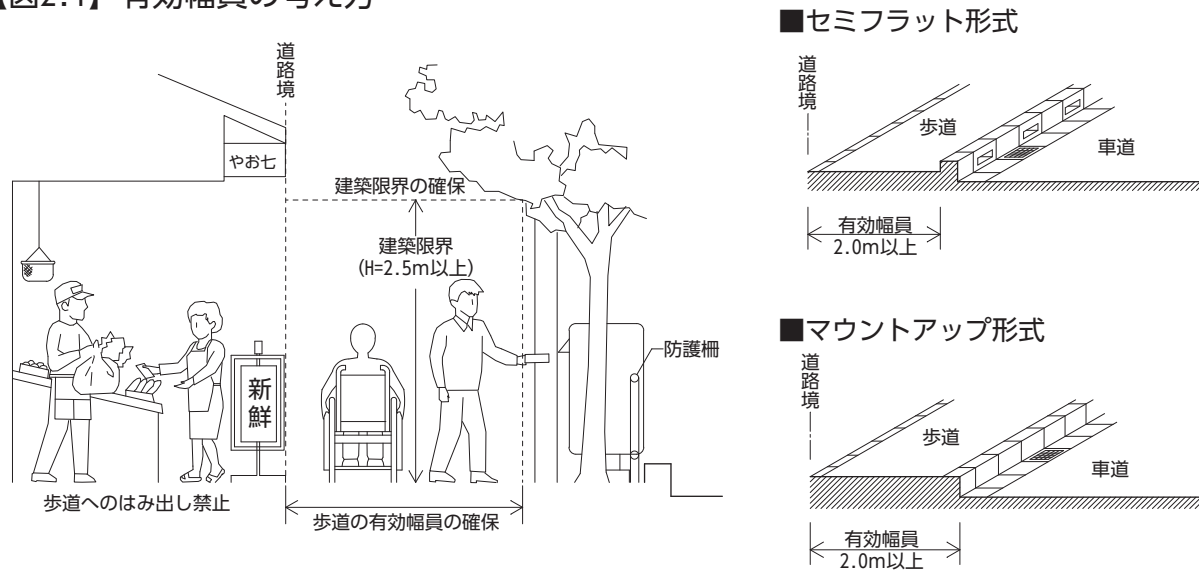
新 設

【図1.3】 縁石の高さ



《 参 考 図 》

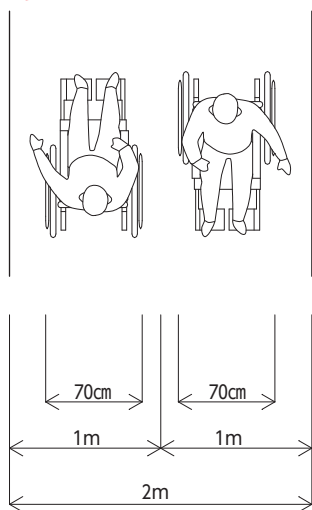
【図2.1】 有効幅員の考え方



【図2.2】 歩道幅員決定の根拠

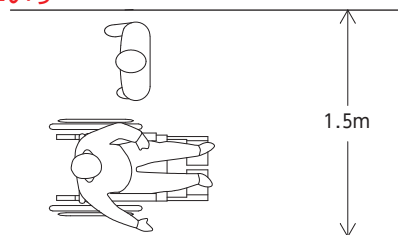
■車椅子使用者同士のすれ違い

車いす



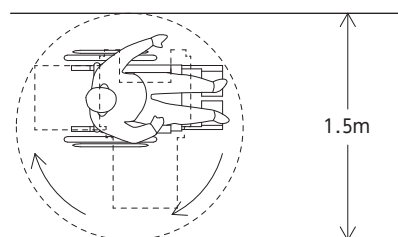
■車椅子使用者と人とのすれ違い

車いす



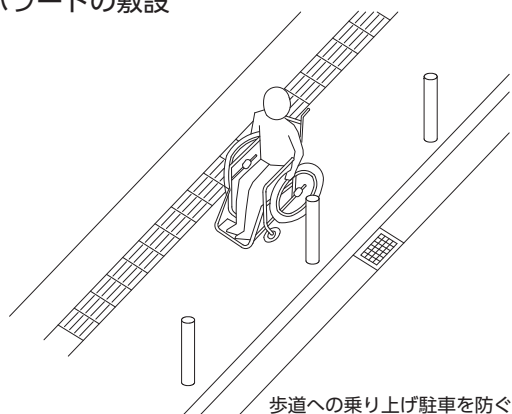
車いす

■車椅子の回転

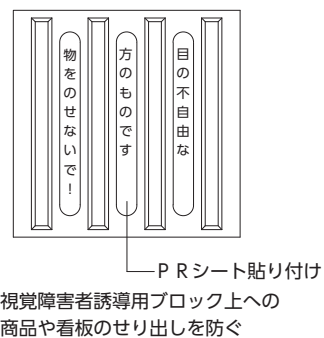


【図2.3】 施工上の配慮

■ボラードの敷設

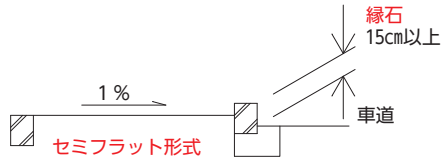


■P Rシートの敷設



【図4.1】横断歩道部等の段差(車乗り入れ部を除く)

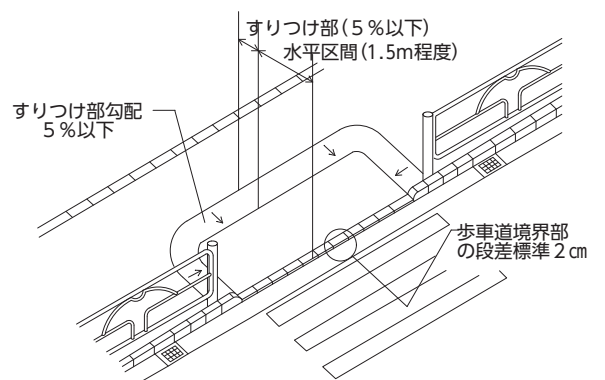
■一般部 (セミフラット形式)



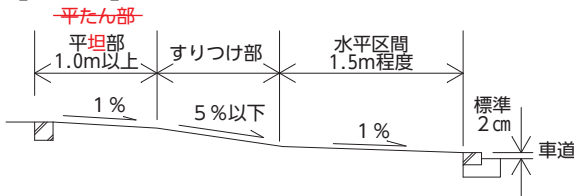
■一般部 (マウントアップ形式)



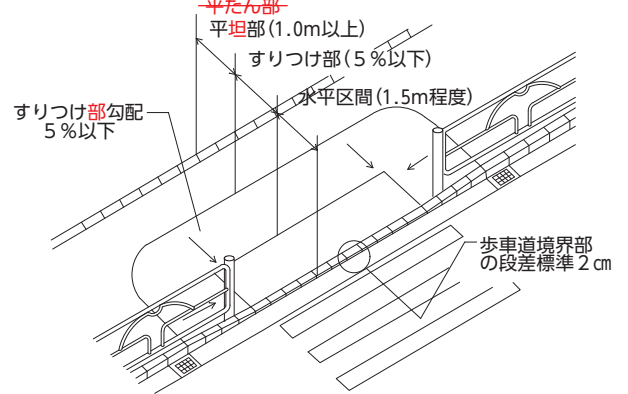
《セミフラット形式の場合》



【図4.2】横断歩道部における構造

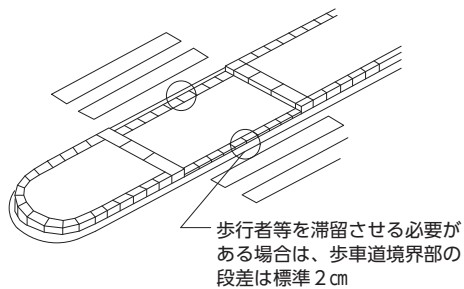
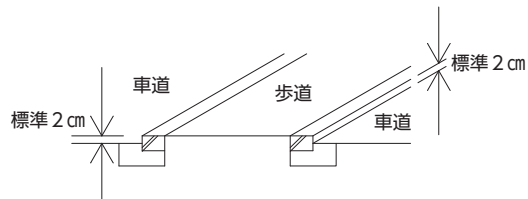


《マウントアップ形式の場合》



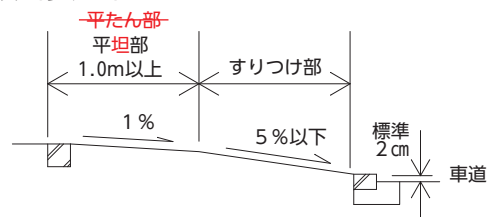
【図4.3】分離帯の切下げ

■横断図面 (歩行者等を滞留させる場合)

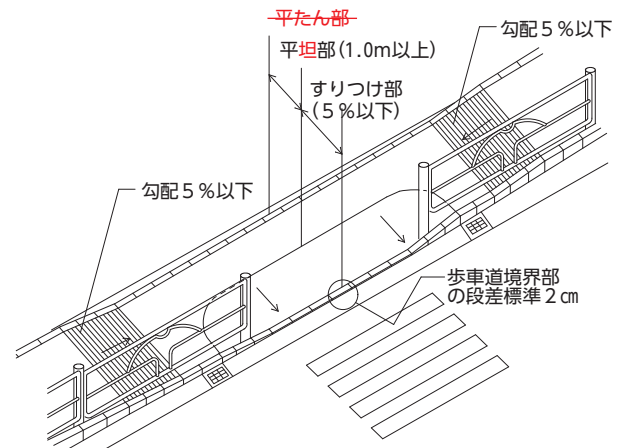
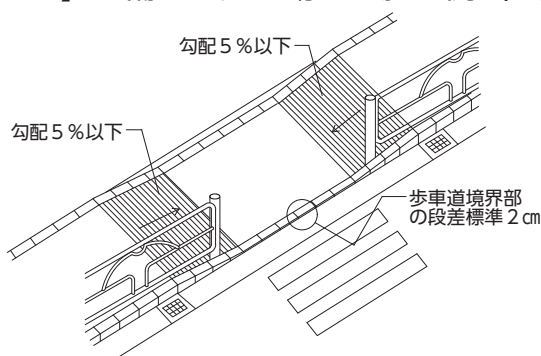


【図4.5】整備が困難な場合の施工例 (2)

■横断歩道部



【図4.4】整備が困難な場合の施工例 (1)



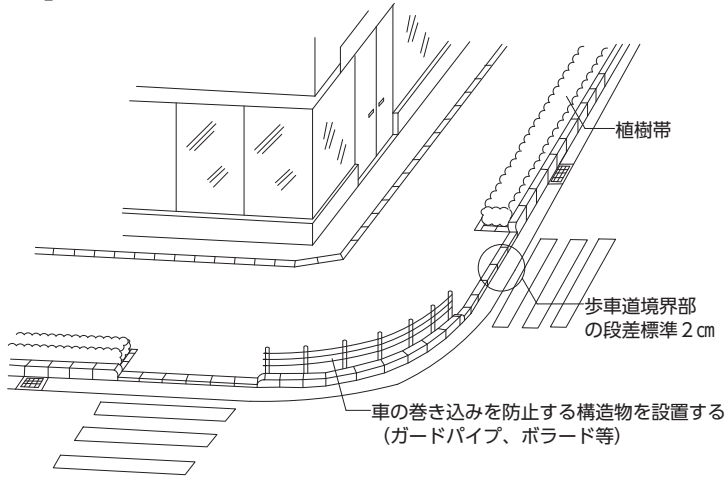
(図面中、信号機、視覚障害者誘導用ブロックは省略している)

《 参 考 図 》

図番号修正
7→5

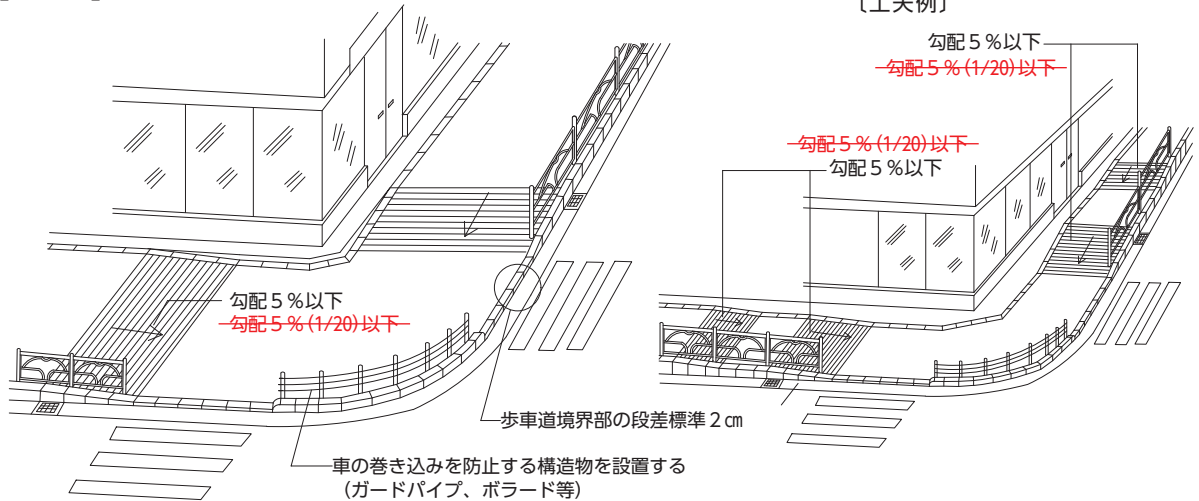
《セミフラット形式の場合》

【図5.1】 歩道全幅員にわたり切下げた構造

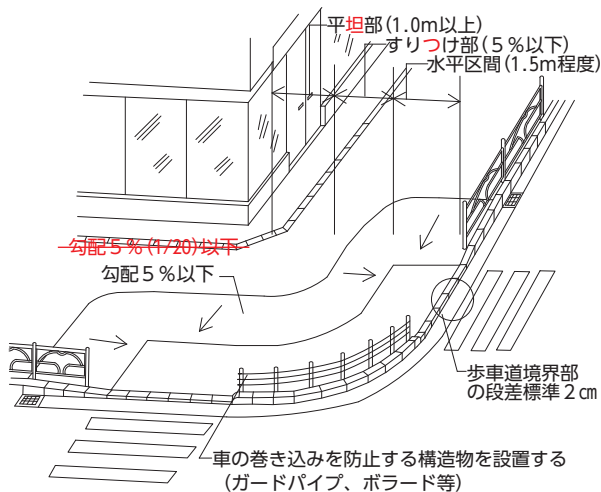


《マウントアップ形式の場合》

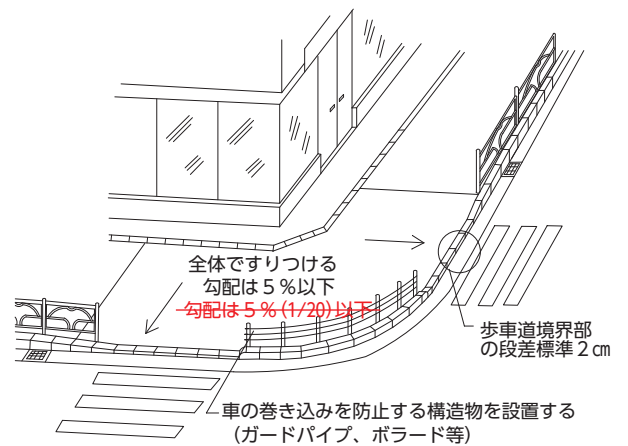
【図5.2】 歩道全幅員にわたり切下げた構造



【図5.3】 広い歩道幅員を有する場合



【図5.4】 整備が困難な場合の施工例



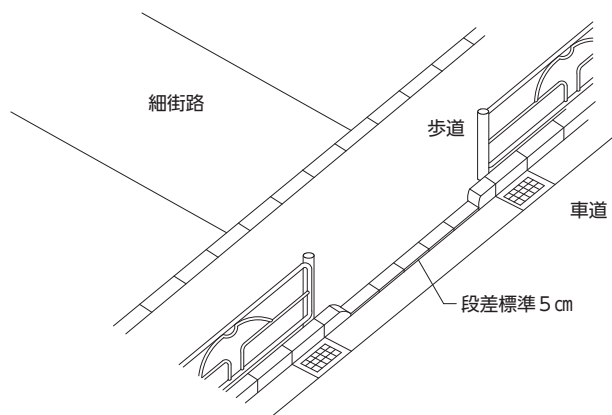
[図面中、信号機、視覚障害者誘導用ブロックは省略している]

《 参 考 図 》
《セミフラット形式の場合》

図番号修正
8→6

【図6.1】 切下げ構造の場合
—[原則として切下げ構造]—

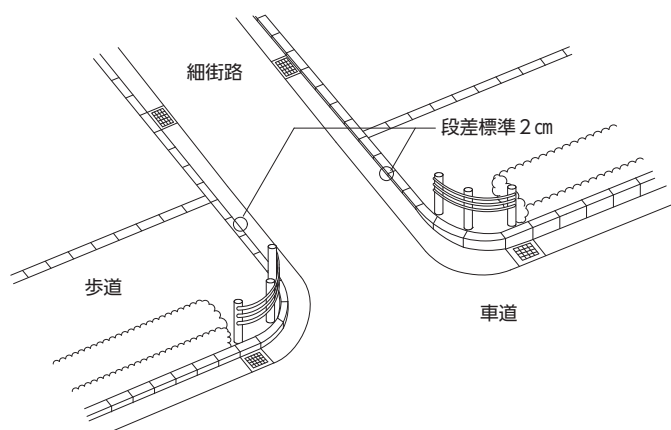
[車乗入れ部の歩道境界ブロック(標準)]



- ・切り下げ部分の構造は「車乗り入れ部」に準ずる。
- ・切り下げ部分は材質や色を変えることにより、視覚的に注意喚起を図る。

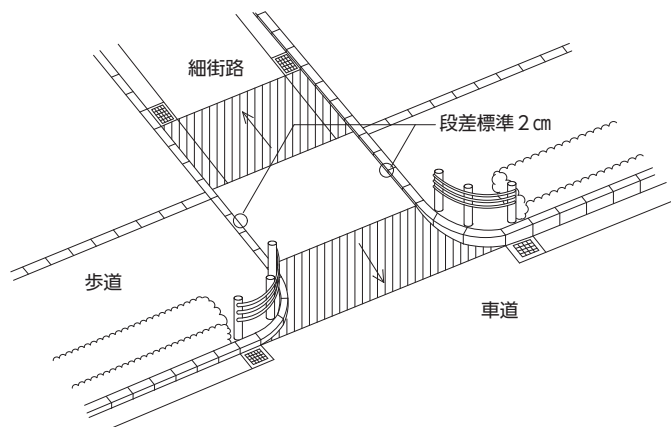
【図6.2】 切り開き形式の場合

新設



《マウントアップ形式の場合》

【図6.3】 切り開き形式の場合 [細街路の路面を歩道の高さまで持ち上げる形式]

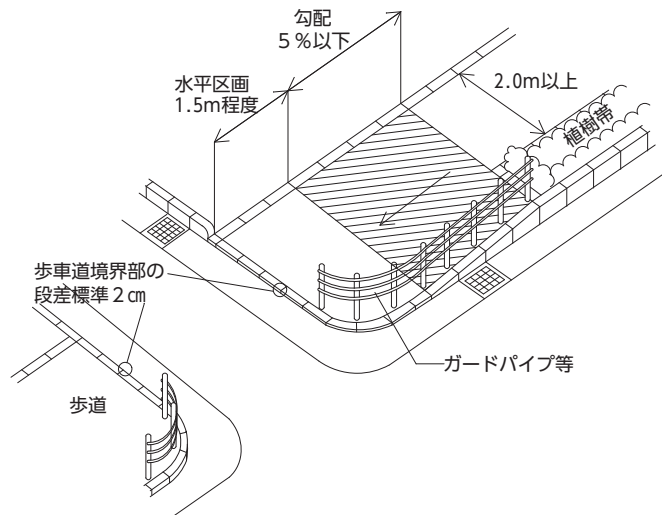


《 参 考 図 》

図番号修正
8→6

《マウントアップ形式の場合》

【図6.4】 切り開き形式の場合〔歩道にすりつける形式〕
~~歩道面を~~



〔図面中、信号機、視覚障害者誘導用ブロックは省略している〕

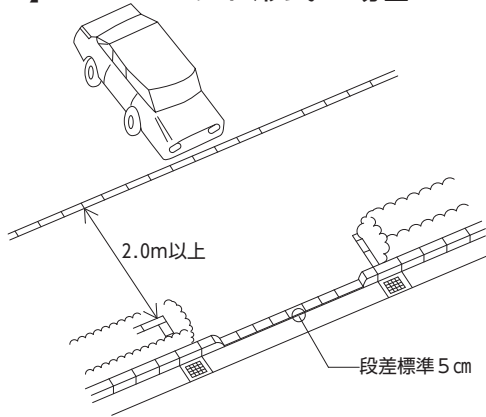
《 参 考 図 》

《セミフラット形式の場合》

図番号修正

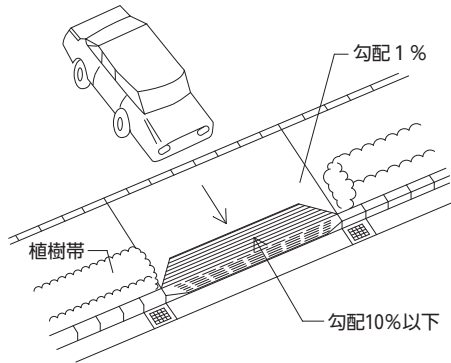
9→7

【図7.1】 セミフラット形式の場合

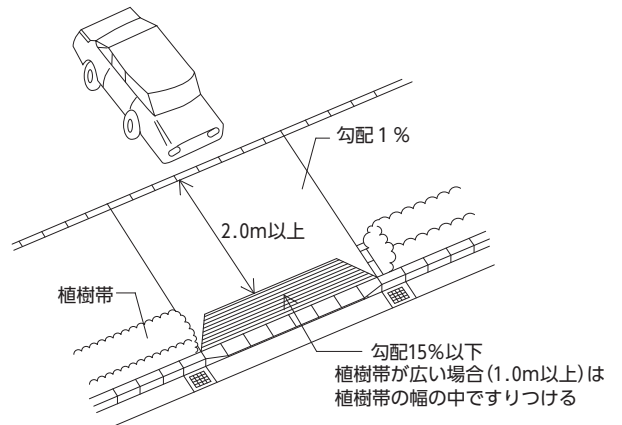


《マウントアップ形式の場合》 ~~平坦部~~

【図7.2】 特殊縁石使用とする場合

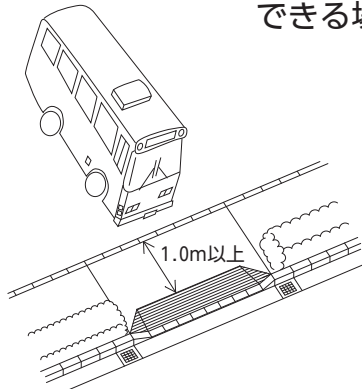


【図7.3】 平坦部が2.0m以上ある場合

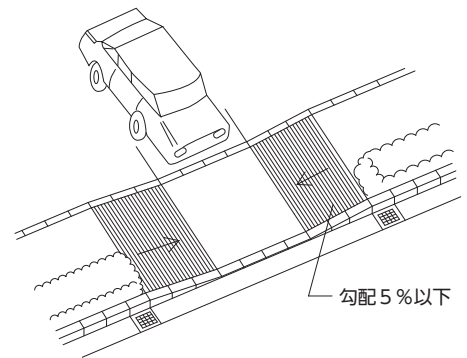


~~平坦部~~

【図7.4】 大型車両の乗り入れが多い箇所において1.0m以上の平坦部が確保できる場合



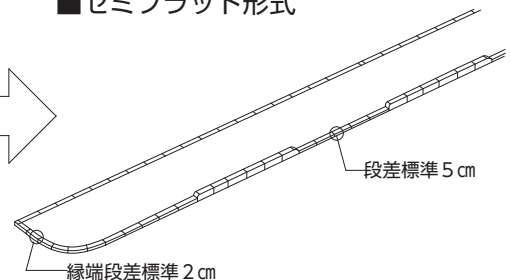
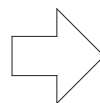
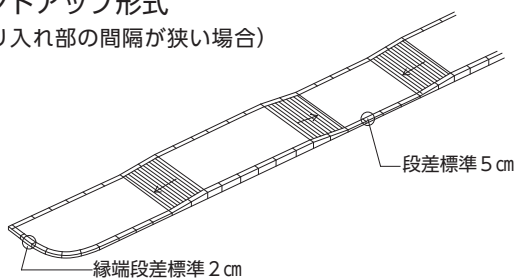
【図7.5】 全断面を切り下げる構造



【図7.6】 セミフラット形式で波打ちを解消したイメージ

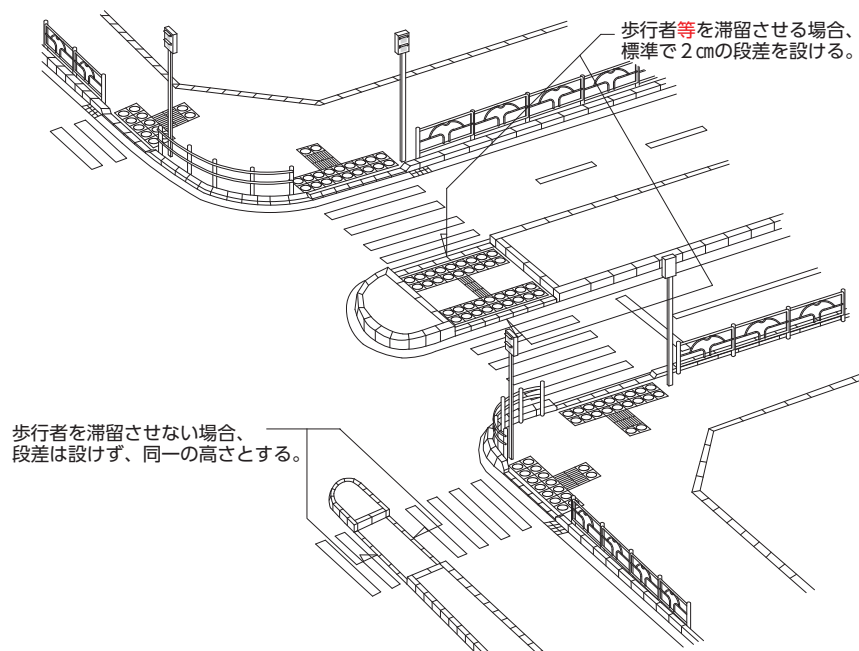
■マウントアップ形式
(車両乗り入れ部の間隔が狭い場合)

■セミフラット形式

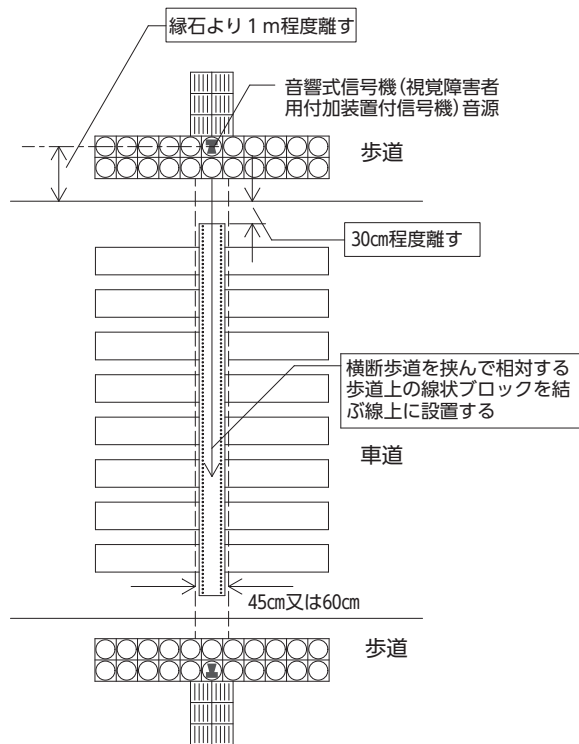


〔図面中、信号機、視覚障害者誘導用ブロックは省略している〕

【図8.1】 分離帯における段差



【図8.2】 エスコートゾーンの設置図



設置方法

- (1) 横断歩道の中央付近で直線状に連続して設置すること。
- (2) 末端を歩道の縁石端から30cm程度離すこと。
- (3) 幅は、45cm又は60cmとすること。

【写真8.1】 エスコートゾーンの設置例

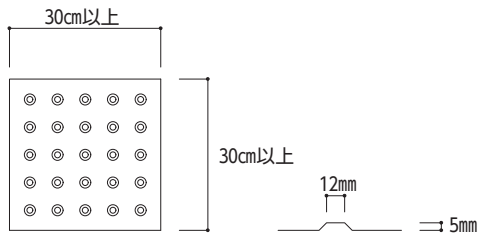


《 参 考 図 》

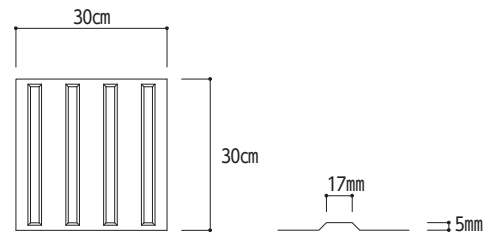
図番号修正
12→9

【図9.1】種類（JIS T 9251による 資-224～226 参照）

■点状ブロック



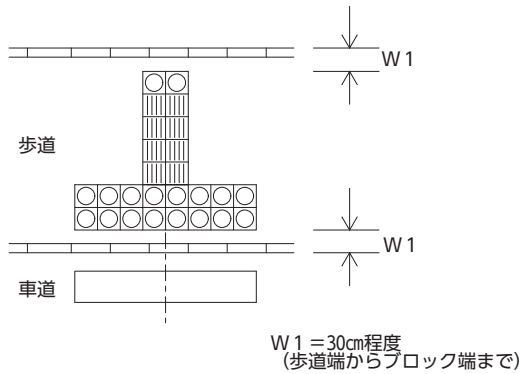
■線状ブロック



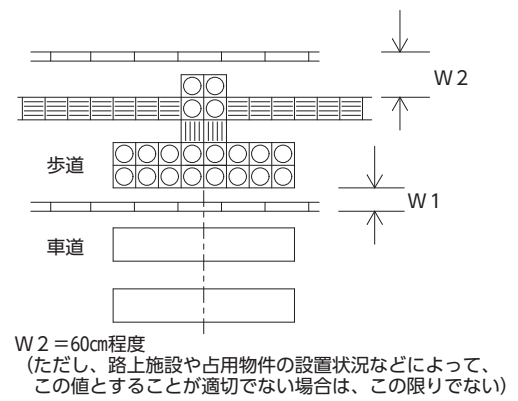
【図9.2】設置例

横断歩道部の設置例

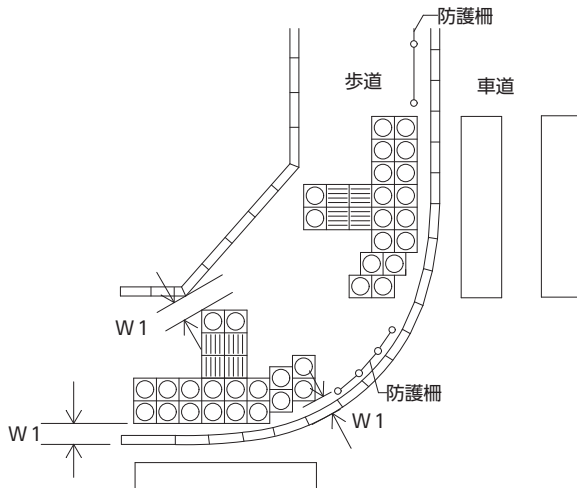
■連続的に案内していない場合



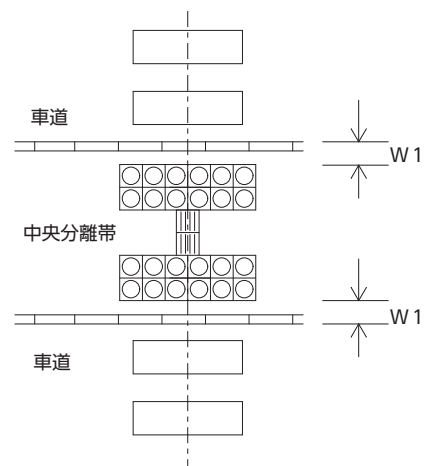
■連続的に直線方向を案内している場合



■2方向に横断が生じる場合

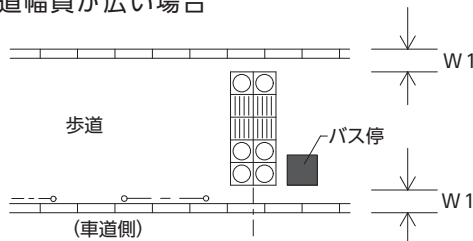


■中央分離帯(広い中央分離帯の場合)

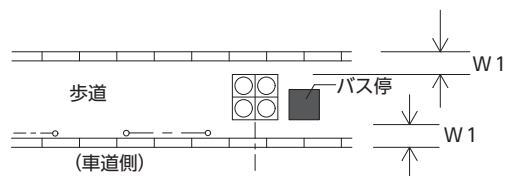


バス停留所部の設置例

■歩道幅員が広い場合



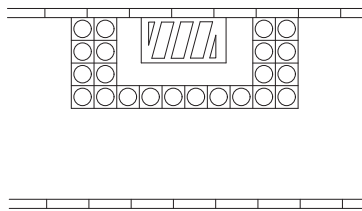
■歩道幅員が狭い場合



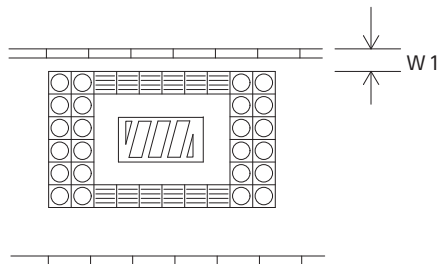
《 参 考 図 》

危険物回避の設置例

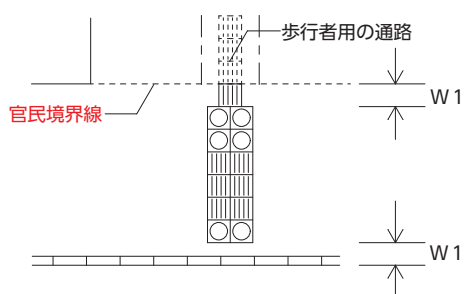
■障害物を囲んだ例



■歩行経路を案内した例

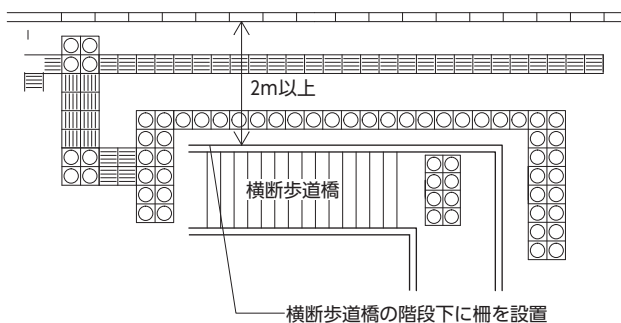


■施設等入口部設置例

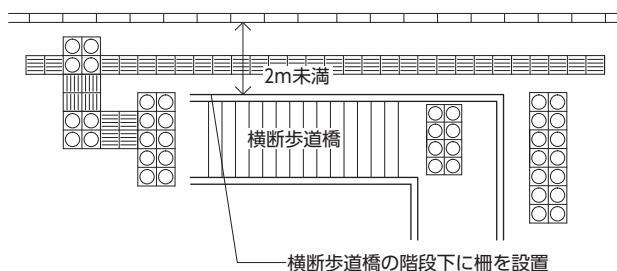


新設

■横断歩道橋階段回りの設置例 (有効幅員が2m以上)

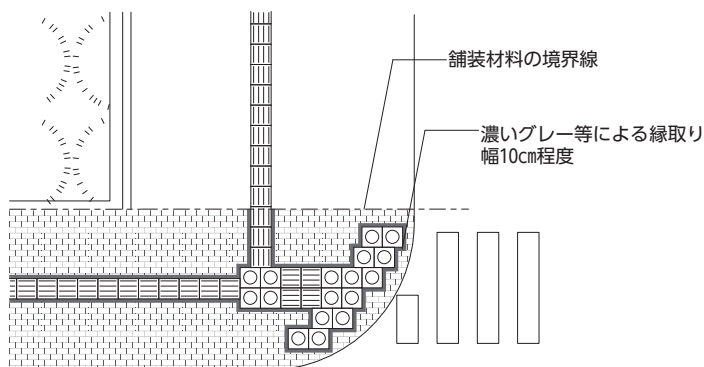


■横断歩道橋階段回りの設置例 (有効幅員が2m未満)



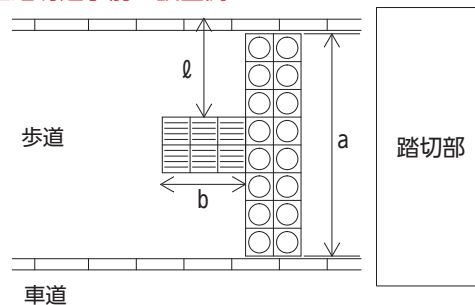
輝度比を確保するための設置例

■舗装の色が黄色に近く、輝度比を確保できない場合の設置例



踏切道の設置例

■踏切道手前の設置例

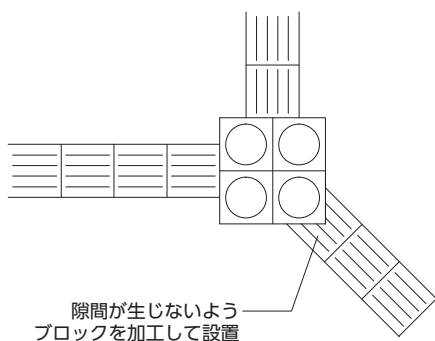


ℓ: 60cm程度
(ただし、路上施設や占用物件の設置状況などによって、この値とすることが適切でない場合は、この限りではない。)
b: 点状ブロックへ誘導するために必要な長さを設けるものとする

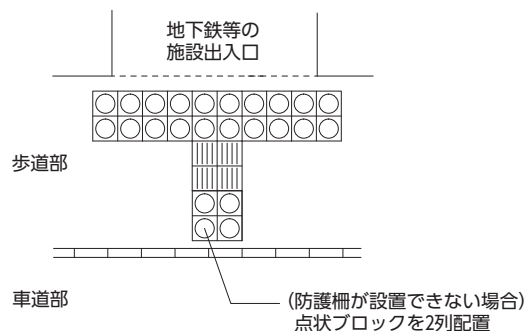
《 参 考 図 》

その他の設置例

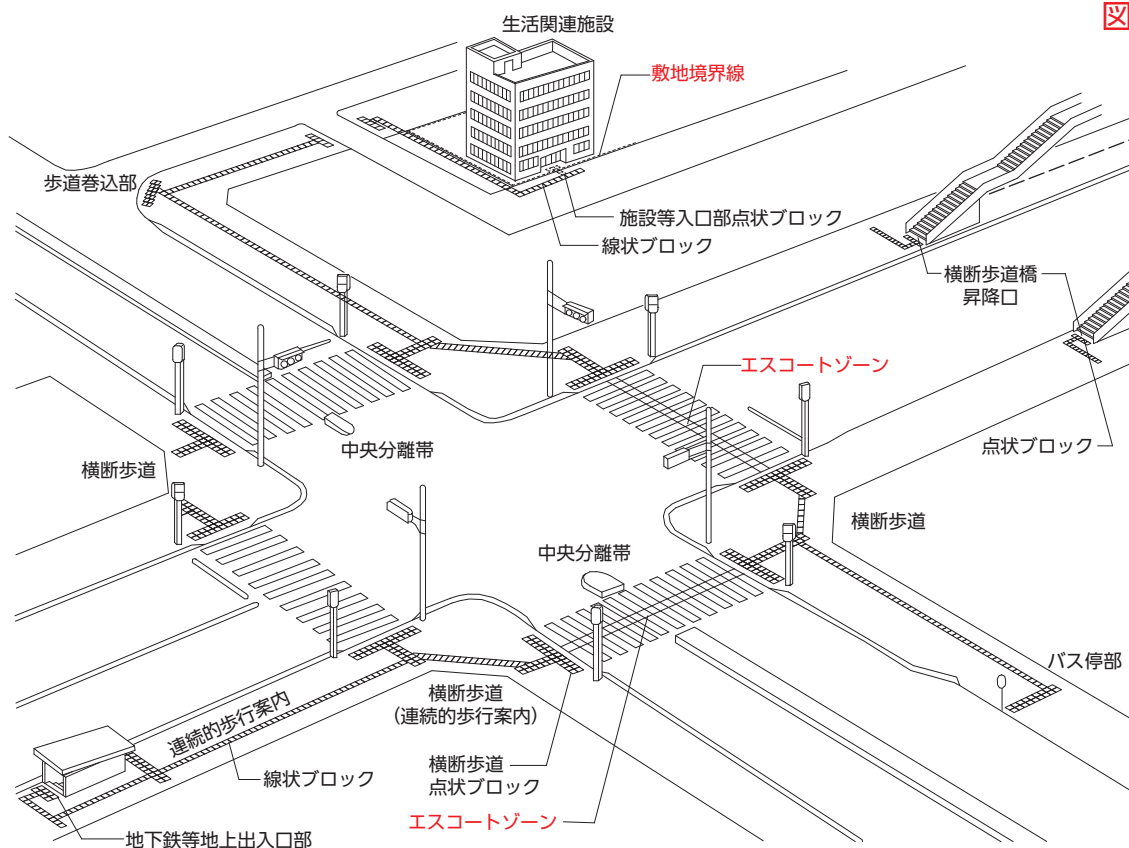
■誘導用ブロックを斜めに接続する場合の設置例



■地下鉄等の施設の出入口等の設置例



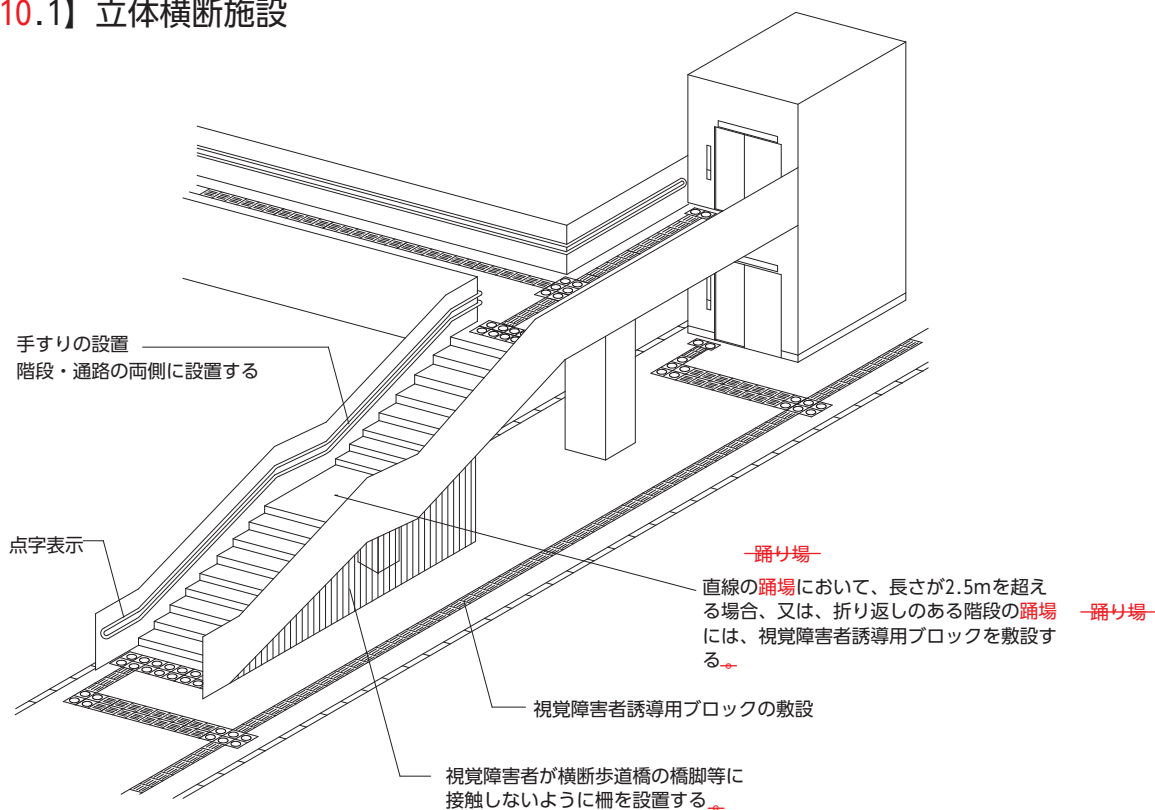
【図9.3】 面的に設置した例
(旅客施設及びバス停から生活関連施設までの連続的な設置例)



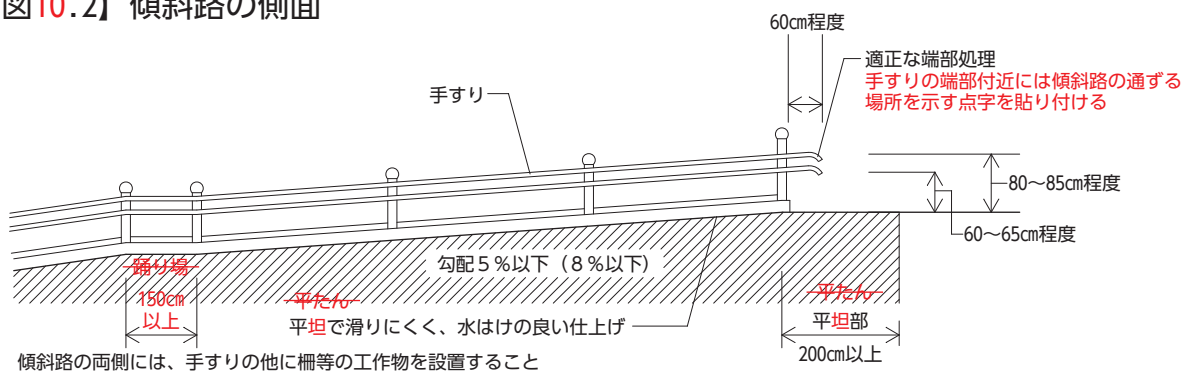
図修正

- ・線状ブロックは、主に誘導対象施設等の方向を案内
- ・点状ブロックは、屈折・屈曲分岐点、横断歩道等の主に注意すべき位置や誘導対象施設等の位置を案内

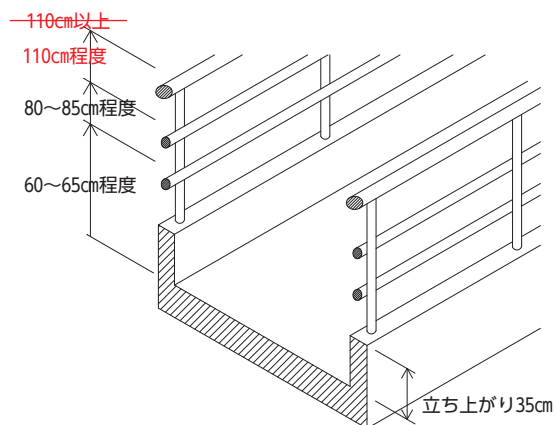
【図10.1】 立体横断施設



【図10.2】 傾斜路の側面



【図10.3】 手すりの断面図

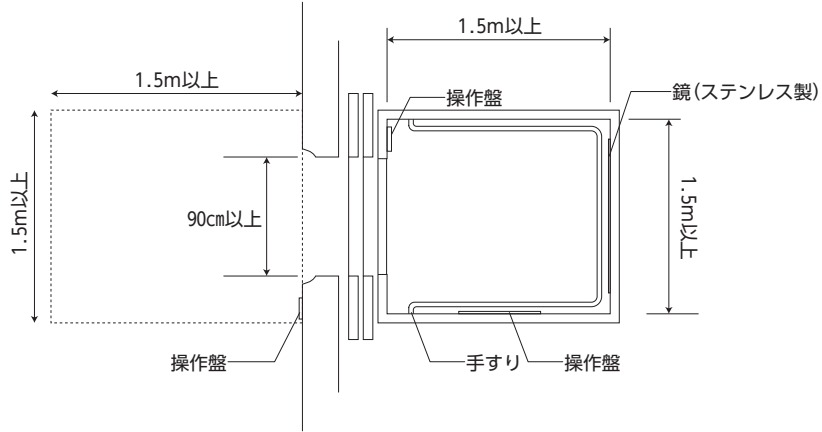


【写真10.1】 スロープの設置例

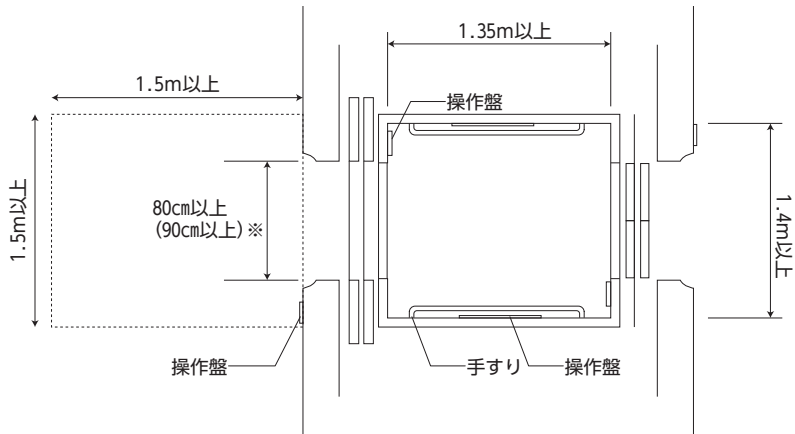


【図10.4】 エレベーターの籠及び出入口の寸法

■出入口が1の場合



■出入口が2の場合

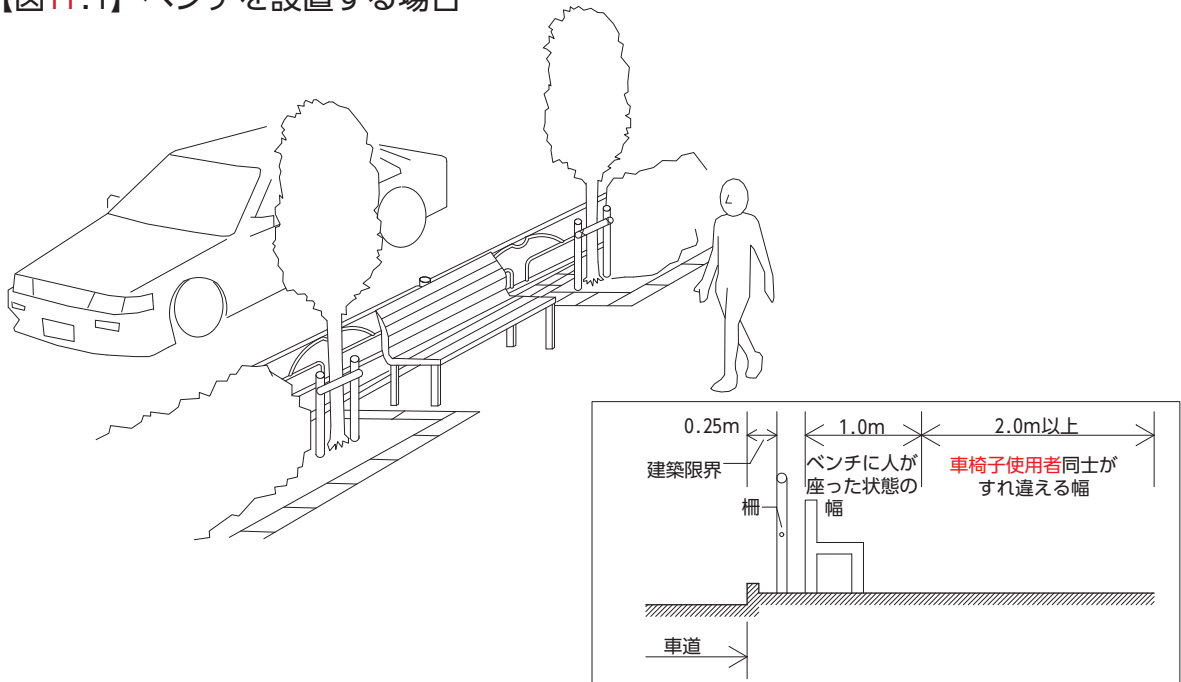


※出入口が複数あるスルー型エレベーターであっても
車椅子使用者の動作の余裕を見込み、有効幅90cm以上とすることが望ましい

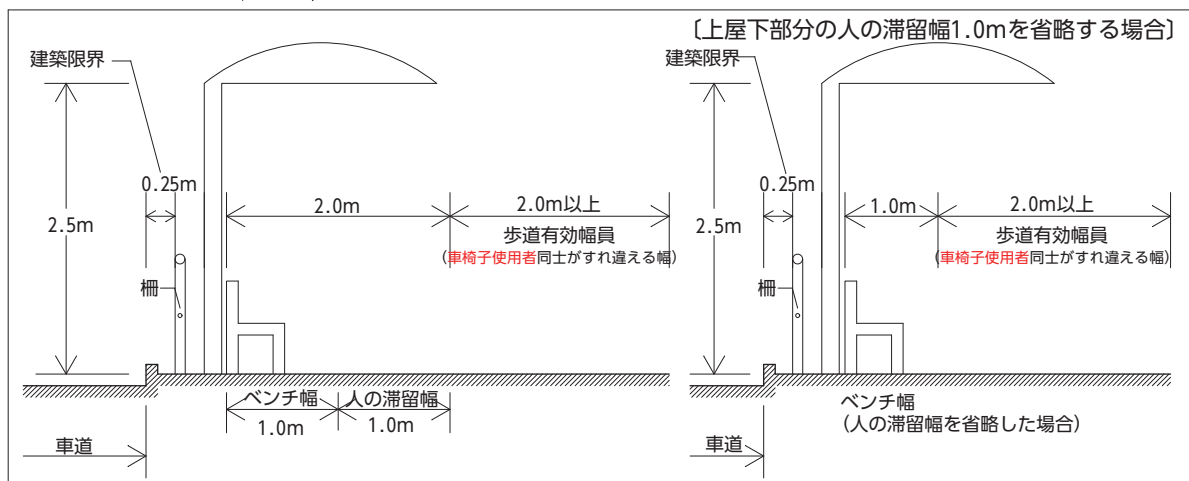
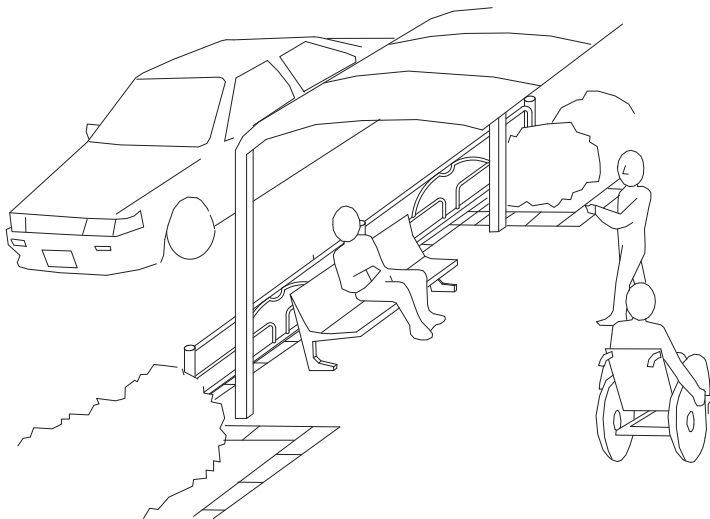
《 参 考 図 》

図番号修正
5→11

【図11.1】 ベンチを設置する場合



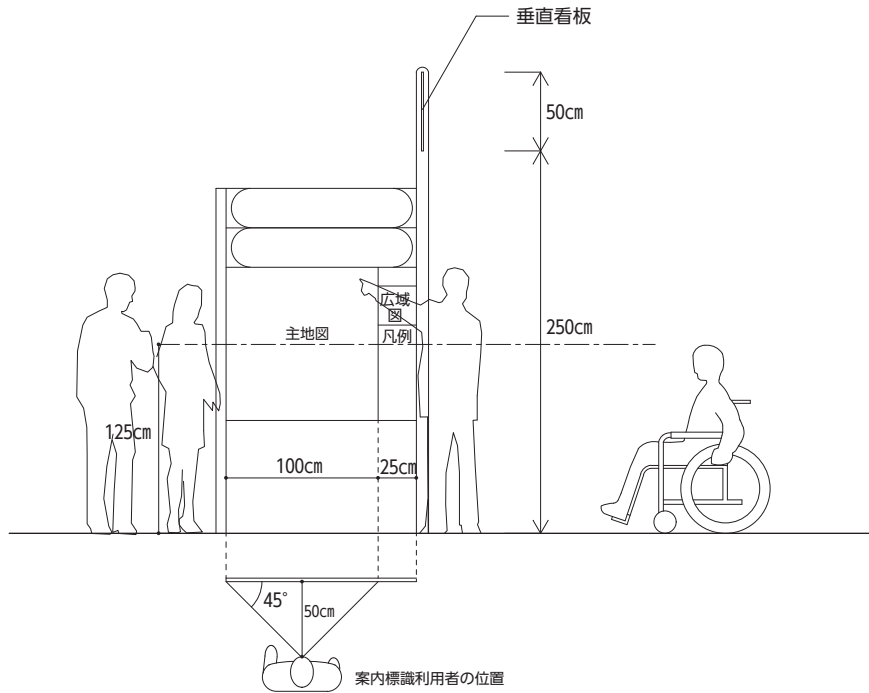
【図11.2】 上屋を併設する場合



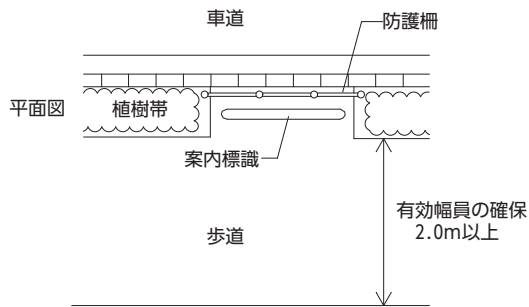
《 参 考 図 》

図番号修正
11→12

【図12.1】案内標識の掲示高さ



【図12.2】案内標識の設置位置



【写真12.1】案内標識の設置例

